

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムVer.4.0 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊予銀行名古屋支店建替えプロジェクト	階数	地上10F
建設地	愛知県名古屋市中区錦二丁目8-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、緑化地域、駐車場整備地区	平均居住人員	324 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年3月8日
敷地面積	719 m ²	作成者	
建築面積	596 m ²	確認日	2023年3月8日
延床面積	6,332 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.0		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.0
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。シンプルで良好な室内環境の確保する。		その他
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。階高H=4.0mを確保し、壁長さ比率0.23により空間の形状・自由度を考慮する。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。リサイクル資材を活用する	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

伊予銀行名古屋支店建替えプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策					4.0
LR1	エネルギー		4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.05	
2. 自然共生					1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出		1.0	0.092158447	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009215845	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上				
3. 循環型社会					3.5
LR2.1	水資源保護		3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2		2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。